

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1770200192		
法人名	特定非営利活動法人菜の花		
事業所名	グループホーム菜の花・七尾		
所在地	七尾市矢田町参号184番2		
自己評価作成日	令和 7年 3月 18日	評価結果市町村受理日	令和7年4月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 寺井潔ソーシャルワーカー事務所
所在地	石川県金沢市有松2丁目4番32号
訪問調査日	令和7年3月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同一法人が運営する「GH菜の花・羽咋」が能登半島地震で全壊し、利用者は旧「菜の花・金沢」に職員共々避難していたが、昨年9月末、閉鎖した。これに伴い、羽咋職員3名が七尾職員として勤務を開始した。本年1月、管理者が浅井から坂本に交代した。浅井は平成18年に採用となったベテラン職員で、長年管理者として、一時はケアマネ業務として業務していたがマンネリ化は否めなく、管理者・坂本が新たな視線でケアに取り組むことになったが、前任者程の力量が無いので、他常勤3人がしっかりとフォローしないと決めた。尚、昨年1月以降、利用者の移動は少なく、昨年3月、金沢から七尾に戻って直ぐに1名が入居され、同月、地震の為に定員外で1名を受け入れ、昨年5月、緊急ショート利用中の1名を受け入れ、9月、羽咋閉鎖に伴い羽咋より利用者2名を受け入れた。尚、運営推進会議は6回、全て体面で行った。羽咋より転勤した新職員3名と、既存職員との融和に努めた結果、入居者の動揺は少なく、穏やかな暮らしを楽しんでいる ← この項、代表者記載 (平均年齢 88.0歳 / 要介護度 2.1)
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

天気の良い日には近道を散歩して近所の方と挨拶をしたり、食材の買い出しに近くのJAやどんたく(スーパー)に出かけている。町会長が豆腐屋さんをしているのでそこへもよく買い物に出かけている。近くのお寺による法話の訪問が訪問調査日にちょうど行われて、皆さんでお経をあげてお話を聴いていた。 食材は、近くのスーパーへ職員が買い物にしている。荷物の少ないちょっとした買い物は、利用者と一緒にしている。献立は理事長が1ヶ月分作成している。それに沿って、多少旬のものを加えて提供している。利用者の皆さんには、簡単な下ごしらえ、味見、後片付けなど出来ることを手伝ってもらっている。食事中は、テレビは消して、いろいろな話をしながら食事を楽しんでいる。「おいしいね」とか、昔話、世間話などしながら、職員は見守りしたり、一緒に食べたりしている。また、誕生会にはケーキを楽しみ、バレンタインにはチョコレートケーキを作り、またおはぎを作って夕食にしたり、花見弁当、七夕にはそうめんときれいに飾り付けたポテトサラダなどで食事を楽しんでいる。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～59で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
60	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	67	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
61	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,42)	○	1. 毎日ある	68	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
62	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:42)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
63	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:40,41)	○	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
64	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:53)		1. ほぼ全ての利用者が	71	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
65	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	72	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
66	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	小規模施設が得意とする濃やかな個別ケアの実践に努めていて、「うちのばあちゃんだったら、どうする？」を合言葉に、管理者・坂本が中心となり、全職員が心を一つにして努力している。	「うちのばあちゃんやったらどうする？」と常に利用者本位に考え、朝夕のミーティング時を利用して常に職員と話し合っている。新入職員が入った時には特に念入りに、また介護につまずいた時には理念に立ち返りケアの振り返りを行う。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	矢田町会長はグループホームに温かく接してくださり、毎回の運営推進会議に出席され、利用者を公民館行事にお誘いくださり、最近では町会の民生委員との交流も深まりつつある。	天気の良い日には近くを散歩して近所の方と挨拶をしたり、食材の買い出しに近くのスーパー等に出かけている。近くのお寺による法話の訪問が訪問調査日にちょうど行われて、皆さんでお経をあげてお話を聴いていた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩や外出時に出会った地域の方々と、挨拶や会話を繰り返したりしているが、積極的な地域貢献と言える程のものではない。又、管理者・坂本は地元町会出身者なので、地元の為に「よろず相談所」的な役割を果たしてくれることを望んでいる。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回議題を決めて真摯に取り組み、1回は消防署を招いた火災避難訓練を、1回は代表者による経営状況の説明を、残り4回を、その時々の課題を選んで議題としている。菜の花では議題に沿った事前資料を作成し参加者に配り、四方山話的な運営会議は行っていない。	家族、町会長、市役所、地域包括、民生委員等が参加して令和6年度は6回開催している。特に家族参加が多く平均して半数以上の家族の参加が見られる。会議では入退去や職員の異動等の報告、高齢者が内服している薬についての講演(薬剤師による)、防火訓練、BCPIについて等が話し合われている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	GH便りを七尾市担当課や市包括支援センターに持参し、当GHの近況をお知らせしている。	七尾市とは毎月待機者名簿を送付しているほか、グループホーム便りが出来た時には送付している。また、市主催の研修会にも職員が参加して連携を図っている。昨年は能登半島地震の被災者受け入れで特に連絡を取ることが多かった。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法律で定められた3ヶ月に1回の検討委員会を開催し、全職員に身体的拘束防止マニュアルを定期的に回覧し、職員向けに年2回の勉強会を開催し(職員レポート提出)、身体拘束をしないケアの尊重に努めている。	今年度は4回適正化のための委員会を開催している。研修では「身体拘束をしないことについての組織の意思」と「言葉による拘束が起きそうになった時どのようにして自分の気持ちをコントロールしているか」について全職員からレポートを提出してもらい研修の効果を高めている。建物の施錠は夜間防犯のため実施している。転倒防止・安全対策のためにセンサーマットを使用している方もいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法律で定められた6ヶ月に1回の検討委員会を開催し、全職員に虐待防止マニュアルを定期的に回覧し、職員向けに年2回の勉強会を開催し(職員レポート提出)、身体拘束をしないケアに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、両制度の利用者はいない。職員はこのような制度があることを、単語としては理解しているが、内容については知らないと思う。利用者に必要があれば、両制度利用に繋がる支援を行いたい←(代表者記載)		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、当GHの料金体系・運営方針・介護への取り組み等の十分な説明を行い、必要な時は、請求書に「お知らせ」を同封したり、GH便りに記載したり等の努力をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年の運推会議で、代表者自ら、経営状況・運営方針等を説明し、家族の要望を聞く機会を設けている。本年度は3月に実施した。職員は家族に、毎月のシーツ交換時、要望の有無を聞いている。	事業所では家族との意見交換の場として独自に「シーツ交換の日」を設け毎月家族さんと利用者のシーツ交換をしながら家族の意見・要望を聴取している。この他、家族面会時には丁寧に家族からの意見を聴きとっている。また、運営推進会議への参加率も多い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現場は朝夕のミーティングの充実を図っていて、現場の意見や提案の内、取り入れる必要のあるものは、運営に反映させている。	管理者は毎日職員と一緒に働いて、その中で職員から意見や提案を受けている。代表者は毎日のミーティングには電話で参加しており事業所の状況は把握している。運営推進会議の他頻繁に事業所を訪問して職員から意見聴取をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準は高く、代表者は残業しない仕事のやり方を強く指導し、定時帰宅を求めている、当GHは、ほぼ出来ている。又、当事業所の賃金水準は極めて高いと思う←(代表者記載)		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	GHの業務は多岐に亘り、1人の職員が、介護・栄養士・看護師・事務員・相談員・清掃員等を兼務する。このような多岐の業務をこなすことは、職員のストレスを生む。昨年5月、10月、大事に育て上げた2人の常勤職員を失った。1人は突然の病死で、1人は家庭の事情による退職であった←(代表者記載)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者はいつも他GHの経営者等と電話での情報交換をしている。代表者は2年間に亘り、羽咋市事業者連絡協議会のGH部会長を務め、市担当課や包括の協力を得て、同業者と情報交換を繰り返し、多くの情報を得た。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当初は全職員1人2声運動を実施する等して、利用者が不安に思っていることや、困っていること等に耳を傾け、信頼関係作りに最大限努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族には入居後数日間に渡り、利用者の様子を電話で知らせたり、入居者特集号を郵送したりして不安感解消に努め、利用者・家族双方が、安心出来る関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	この問いはGHの理想の姿であるが、「他のサービス利用も含めた対応」まではしていない。ただGHよりも療養型が相応しいケースや、在宅のままの方が相応しいと判断した時は、入居相談時に、そのようにアドバイスしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	漬け物・梅干し・らっきょう漬け・水ブキ・かぶら・寿し・野菜作り等は、職員よりも利用者の方が数段ベテランのことが多く、調理や農作業はむしろ利用者に指導を仰いでいる。そして、ギブ＆テイクの良い関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	数年前のコロナの時期に、感染予防の観点から、面会中止の高齢者施設が大部分であったが、当GHは、パンデミック時は中止したが、それ以外は毎月家族に来所を求め、シーツ交換を継続し、利用者の精神的安定を図り、家族と共に利用者を支えた。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人が訪ねて来るケースがたまにある。本人の友人達は外出もおぼつかない程の高齢者であり、家族を通して本人の友人達に無理な訪問をお願いすることが出来ない。絵はがき等を投函する利用者はいるし、時々利用者に電話が掛かることもある。携帯電話持参利用者は2名いる。	面会は居室内で行っている。感染対策をとって、電話で予約してもらい、短時間の面会をお願いしている。友人との面会の時も同じようにしている。家族との外出についても特に制限なくしてもらっている。毎週家に帰る人や、隔週ごとに帰る人もいる。事業所ではよくドライブへ出かけているが、その際には利用者の希望を聞いて出かける。買い物と一緒に出掛け、その帰りに利用者の自宅に立ち寄ることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者1人ひとりの生活歴や性格を把握し、得意なことを活かしながら、利用者同士が共に支え合い、関わりが持てるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	「退居者特集号」を作り家族に送付し、転出先の施設等へ、管理者が安否確認の電話をしていたが、退居者特集号については見直しの方向で、家庭の事情を考慮しながら作成し、送付している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月、本人の希望アンケートを実施していたが、震災を機に中止した。自宅への外出願望が強い利用者は、職員が自宅にお連れする等の支援をしたり、家族さんに本人の希望を伝えるメールを送ったりしている。	毎日一緒に生活しているので、なんとなく感じは掴むことはできている。職員が気付いたことについてはミーティングで共有して統一したケアができるように努めている。利用者の表情、しぐさ、動き等いつもとちょっと違うぞと思った時には注意して関わっている。また、アセスメント記録や家族からの情報等も参考にして本人本位の検討をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の入居前の生活をケアプランに表記し、全職員が把握している。そして、無理に過去の生活歴を聞こうとせず、現在の姿をありのまま、受け止めようとしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は、1人ひとりの一日のスケジュール、心身状態、有する力の把握に努めている。朝夕の申し送り時に、注意すべきことがあった時は、必ず伝達している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者・家族の希望を伺い、職員で話し合っ、ケアプランを立案している。またケアの目標を定め、2ヶ月に一度は担当職員でモニタリングを行い、次のケアの目標に反映させている。状態が余り変化しないので、2ヶ月に一度のモニタリングで十分と思う。	入居して暫くは暫定プランを作成して、生活状況を見ながら本プランを作成している。大きな変化がなければ12カ月毎にプランを更新するが、モニタリングは毎月行っており、何か変化があればその都度プランを見直している。記録用紙の横に「ケアプラン立案のワンポイント」を綴りケアプランを意識した記録ができるように工夫している。記録は個人日報と健康管理表(排泄、バイタル、入浴、水分、薬剤等)がある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人日報の「健康管理表」を見直した結果、排便管理等が一目瞭然となり、表に基づき、日々の健康状態を詳しく確認している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の事情に応じて医療機関の受診代行、シーツ交換時の洗濯代行、外食同伴等の柔軟なサービス提供に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	七尾市の特徴は、狭い地域にいろいろな資源が散在していることで、又、当GHは市内中心部に近く、気軽に何処にでも出掛けられるが、地震の影響で道や歩道や遊歩道がデコボコで、外出先選びは十分に吟味せざるを得なかった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今年も又、家族に主治医の往診に立ち会って頂き、診療内容について、主治医から説明を受けてもらった。新たに入居された方には、薬剤師との面談を実施した。	現在2つの医療機関が利用者の主治医となっている。両方とも往診と24H対応してくれるので職員は医師と直接に情報交換し指示を受けている。内科以外を受診の場合には、主治医が紹介状を書いてくれて他科や総合病院を受診する。その場合は基本家族送迎となるが、家族が出来ない場合には職員が通院送迎を行っている。歯科も往診してくれるところがある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ガンが悪化し、訪看のケアが必要になりそうな利用者がいて、準備を開始する矢先に転居された。パートの看護師が勤務しているが、全職員がいち早く病変に気付くことが大切だと考えて、職員の医学的知識の習得に力を注いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は介護記録を医療機関に送付している。又、入院中は家族と連絡を取り合い、利用者の状態を伺ったり、医療機関の相談員や当GH主治医と連絡を取り合い、早期退院に努めるマニュアルはあるが、該当者がいなかった。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今まで何例かの看取りの経験はあるが、本年度もまた該当者がいなかった。今までの看取りから、職員は多くのことを学んだ。そして学んだことを、自分の人生に取り入れたいと願っている。運営推進会議で、自分の終末期の過ごし方について、家族に問い掛けたいとも考えている ←(代表者記載)	グループホームであるので、医療行為が常に必要になった場合には他の介護保険施設等への移行について家族と話し合っスムーズに移れるように支援している。重度化についてはここで見ることでできる限りはケアしていく方針であり、現在も圧迫骨折の方がいて、動かないと寝たきりになってしまうので、出来るだけ動いてもらいここで生活し続けることができるように支援している。過去には看取りの事例はあり、その際には家族の希望を受け、医師から説明してもらい、家族から同意をもらい実施した。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員は繰り返し、緊急マニュアルを基に訓練を行っていて、又、救急救命訓練を受講済だが、非常時、職員がマニュアルを基に、咄嗟の判断を加えて動けるか？ と言うと、難しい。介護職員の欠点は、総合的判断力の欠如である ←(代表者記載)		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○緊急時等の対応 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態に対応する体制が整備されている	緊急時の連絡方法や避難訓練は日頃から十分過ぎる程、職員に伝達しているが、先日も利用者の体調不良時の代表者への電話相談内容に問題があり、職員にレポート提出を求めているが、賽の河原的な一面がある ←(代表者記載)	「緊急時等マニュアルファイル(リスクマネジメント)」があり、この中に「無断外出マニュアル」、「救急車対応マニュアル」、「異変の観察ポイント」、「誤飲・窒息・のど詰まり・異食時・低血糖対応マニュアル」、「感染症予防マニュアル(新型コロナ含とチェック表)」、「ノロウィルスマニュアル」などが作成されている。マニュアルの周知は、5、15、20、25、30日にその日のテーマを決めてマニュアルの読み合わせを行っている。また、「業務継続計画(感染症編)」も作成されている。	
36	(14)	○バックアップ機関の充実 協力医療機関や介護老人福祉施設等のバックアップ機関との間で、支援体制が確保されている	協力医療機関との連携は十分にあるが、連携施設の特養とは、日常の実質的な交流がない。これは非常時を想定したバックアップと考えられる。非常時にこの制度が運用出来るのか？ 疑問もあるが、連携施設の理事長と当GH代表者は親しいので、非常時に機能すると思う。	利用者の方が往診を受けているのは、市内にある円山病院と北村病院である。北村病院の医師は月1回往診に来ていて、2名の方の主治医である。円山病院の医師は月1～2回の往診であり、5名の方の主治医である。1年を通して24時間連絡が可能であり、緊急時の対応もしてくれる。また協力歯科もあり、往診してもらっている。バックアップ機関は、市内の特別養護老人ホームであり、情報交換を行なっている。	
37	(15)	○夜間及び深夜における勤務体制 夜間及び深夜における勤務体制が、緊急時に対応したものとなっている	万が一の時は一刻も早く、近隣職員の応援が得られるよう、職員には常に携帯電話を持つようお願いしている。	1ユニットであり、1人夜勤である。1人だけになるのは、21時から翌朝6時までである。この夜勤帯に利用者の状態に変化があった場合、夜勤者はすぐに理事長に連絡し、指示を受けている。救急車を呼んだ場合は、管理者が家族に連絡を入れ、病院に向かってもらっている。	
38	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今まで正直なところ、火災しか想定していなかったが、地震に遭遇した。職員はそれなりに落ち着いて理事長に判断を求めて来たので、日頃の訓練の成果は出ていたと思う。	令和6年12月22日に夜間想定総合訓練を実施している。例年は3月に防災訓練を実施しているが、都合により4月に実施予定となっている。訓練前には「火災による避難訓練計画書」を作成し、訓練内容を職員へ周知している。また訓練後は、「火災による避難訓練報告書」を作成し、回覧し、職員の防災意識の向上に努めている。	
39	(17)	○災害対策 災害時の利用者の安全確保のための体制が整備されている	非常時にはボタン1つで、代表者・管理者・職員に携帯電話がつながるようにセットされている。	「緊急時等マニュアルファイル(リスクマネジメント)」があり、この中に「火災発生時マニュアル」、「水害・地震・津波等の災害時マニュアル」、「原発災害発生時マニュアル」などが作成されている。マニュアルの周知は、5、15、20、25、30日にその日のテーマを決めてマニュアルの読み合わせを行っている。また、「業務継続計画(自然災害編)」も作成されている。備蓄は、BCPの中に「必要品の備蓄等」として示されている。生活用品として、予備電池、旧式ストーブ(2台)、ペットボトル(500ml 24本入り5箱)、カセットコンロ(2台)、ガスボンベ(6本)、その他衛生用品や日用品も備蓄されている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
40	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員チェックリスト(入居者対応・言葉遣い)で、職員自身が自分の心に問いかけ、利用者の人格やプライバシー尊重に十分な配慮をしている。	献立の種類などリクエストを聞いたり、選択してもらったり、利用者の希望を最大限取り入れるよう努めている。また 利用者の生活ペースや希望に沿った支援を心がけ、一人ひとりの人格を尊重した支援を目指している。プライバシーについては、排泄介助ではカーテンを閉め介助し、便座に座ったら職員はカーテンの外で待機している。また入浴介助の着脱時にも、介助者以外に裸が見えることがないように配慮している。そして、居室に入る際には必ず声をかけ、職員間の申し送りは利用者の皆さんには聞こえない場所で行うように心がけている。	
41		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	献立やお茶の種類のリクエストを求めたり、レクリエーションの選択をご本人に委ねたり、家事も利用者の得意なことをお願いしたり、外出先もご本人の希望を最大限取り入れたりの配慮をしている。		
42		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員間のチームワークが良いので、GH内の雰囲気明るい。業務に慣れたベテラン職員が多いので、時間的な余裕があり、利用者の希望に沿った支援や、利用者の生活ペースの尊重が出来ている。		
43		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	能登の福祉施設利用者の身なりは、金沢の施設利用者に比して地味で、粗末な衣類の方が多いので、当GHでは身だしなみには最大限の配慮をして、綿々のブラウスにチェックのスカートなどにならないよう、持参された衣類をセンス良く組み合わせ、チグハグにならないよう支援している。		
44	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材高騰により、献立に苦労している。献立は家庭料理そのものだが、1日当たり1100円では、買える物が限られる。調理から後片付けまで利用者と職員が一体で行っているが、かつて金沢のGHのような雰囲気はない。職員の自覚が乏しく、調理は職員が主流のように思う。早急に改善せねばならない ←(代表者記載)	食材は、近くのスーパーへ職員が買い物にいつている。荷物の少ないちょっとした買い物は、利用者と一緒にいつている。献立は理事長が1ヶ月分作成している。それに沿って、多少旬のものを加えて提供している。利用者の皆さんには、簡単な下ごしらえ、味見、後片付けなど出来ることを手伝ってもらっている。食事中は、テレビは消して、いろいろな話をしながら食事を楽しんでいる。「おいしいね」とか、昔話、世間話などしながら、職員は見守りしたり、一緒に食べたりしている。また、誕生会にはケーキを楽しみ、バレンタインにはチョコレートケーキを作り、またおはぎを作って夕食にしたり、花見弁当、七夕にはそうめんときれいに飾り付けたポテトサラダなどで食事を楽しんでいる。そして、しら玉ぜんざい、ホットケーキ、お好み焼き、フルーツ寒天などの手作りおやつでも食事を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重増加対策として、低脂肪・高たんぱくのヘルシーメニューを心掛けている。降圧剤服用者が多いので、気持ち減塩している。		
46		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	年に1回の歯科検診を実施した。毎食後の口腔ケアの徹底と舌ブラシ使用、就寝前の入れ歯洗浄の徹底を図った。全職員は1人1人の歯磨きチェックや義歯の状態等を、把握している。		
47	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者と職員が少人数であるGHの利点を生かし、職員は利用者の排泄パターンをほぼ把握している。よって、利用者の排泄失敗事例は非常に少ない。	個別日報に個々の利用者の排泄状況を記入している。職員は利用者の皆さんの排泄パターンを把握できている。また半数以上の方が布パンツで過ごしており、タイミング良い声かけで、トイレで排泄できるよう支援している。夜間に関しては、「夜間トイレ誘導一覧表」が作成され、状態に変化がない限り、この一覧表に示された時間にトイレ誘導し、転倒を防ぎ、トイレで排泄できるよう支援している。そして令和6年度は、リハビリパンツから布パンツへの移行を目指した方が1名いる。この取り組みにより現在は、布パンツにパッドを使用する状態になっている。	
48		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立に食物繊維を多く取り入れ、歩行運動を継続し、牛乳・ヨーグルト・ヤクルト、バナナ・さつまいも等を、積極的に食している。定期的の下剤を服用される方が4名いるが、便秘を訴える方は少ない。		
49	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日や時間帯に縛りはあるが、職員の負担と業務の優先順位等を総合的に判断し、入浴回数が多ければ良いと言う考えを捨てた。又、菖蒲湯・柚子湯等を楽しんでいる。	入浴日は、月曜日と木曜日である。全員入浴している。拒まれる方には、時間をおいて声かけする、声かける職員を変える、「今日は体重測定です」など声かけの工夫を行うなどして入浴してもらっている。本人の状態によっては、足浴、清拭で対応することもある。浴槽に浸かっている間、一緒に歌を歌ったり、話をしたりする方もいれば、好みの湯加減でのんびり一人でお湯につかっている方もいる。そのような時は、浴室から出て、脱衣場から本人の様子をみている。	
50		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、不眠がちの利用者には日中に身体を動かし、趣味の時間を楽しめるよう支援したり、眠れない利用者に夜勤職員は足浴を実施したり、温かい飲み物や軽食を提供し、入眠に繋げている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診時や薬局の居宅療養管理指導時、不要な薬がないか？を、相談している。また、請求書発送時、家族に薬剤情報送付を継続している。日本調剤小丸山薬局は非常に優秀な薬局で、職員は、毎月の居宅療養管理指導から学ぶことが多い。		
52		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	時間を見つけて、ドライブを繰り返した。楽しみごとのリハビリ(絵手紙・読書・パズル・大人の塗絵・フラワー教室・お経・踊り・ラジオ体操、家庭菜園、朗読教室等)を多く設定し、一人ひとりに合った活動参加を促している。		
53	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望に基づき、天候と体調に相談し、散歩・お参り・ショッピング・ドライブ等に出かけているが、現在の人員配置基準では、こちら辺が限界。	気候のよい時期や天気の良い日に、ホーム周辺を散歩している。散歩に出て、ふきのとうを摘んで、ふきのとう味噌にして食べた。また、花見ドライブ、紅葉狩りドライブ、城山に行ったり、能登島大橋を見に行ったりしている。そして、利用者の自宅やお墓の近くにもドライブに出かけている。	
54		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	前年度に職員間で利用者のお金の所時について、徹底的に話し合った結果、利用者6人が金銭管理をされている。金銭出納帳は1ヵ月に1度、担当職員を交え、家族さんと残金を確認している。		
55		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分専用の携帯を持つ利用者が2名いる。通信の自由なので、職員は携帯電話使用を支援している。利用者が絵手紙等を描いた時は、投函等の支援をしている。		
56	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物は障子を使用し、居間・居室窓からは七尾の山並みや矢田の在所が眺められ、心が和む。田んぼにはカモやしらすぎやキジがエサを求めて飛来し、利用者は楽しみにされている。	日中は皆さんリビングで過ごす方が多い。そのため、食後と朝・夕に掃除と消毒を行い清潔保持に努めている。また、リビングには温度計と湿度計があり、温度計も見ながら、そして除湿器、加湿器、空気清浄機を使い居心地良く過ごせるよう配慮している。この他、窓から見える田んぼには、カモやしらすぎ、キジ等を見ることができ、利用者の皆さんも楽しみにしている。そして広いリビングには、足腰の弱い方のために固いクッションのベンチを置き、皆さんがのんびりくつろぐことができるように取り組んでいる。但し、相性の悪い方もいるので、そのような場合は食事の席には配慮している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広い居間の所々にベンチを配置し、気の合った利用者同士で思い思いに過ごされている。相性の合わない利用者同士もいるが、居間が広いので、逃げ場を作ることが出来る。		
58	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	最近では自室に小さな観葉植物やお花を置いたり、絵手紙や俳句等を飾り、花の季節に本人の写真を撮り、額装して飾っている。	居室に取り付けられているものは、タンス、整理ダンス、飾り棚、手すり、ベッド、エアコンである。持ち込みに特に制限はなく、入居の際は馴染みの物を持ち込むように話している。現在入居している方は、テレビ、携帯電話、好みの新聞などを持ち込んでいる。居室の中には、小さな観葉植物や季節の花、絵手紙や俳句、写真などが飾ってある。居室は毎朝掃除を行い、利用者の皆さんには出来ることは手伝ってもらっている。月1回シーツ交換日があり、家族がシーツ交換に来る。そのため、その前日にはしっかりと居室掃除をしている。居室の室温・湿度については、訴えない方については訪室し、暑くないか、寒くないかなど職員が確認している。	
59		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物全体が純和風となっており、畳を使用することで気持ちが和らぐ。トイレは「便所」と分かり易く表示している。全館バリアフリーで、また足腰の悪い人に配慮して、硬いクッションのベンチに取り換えた。		